

第二次大戦前夜、日本。 世界を動かした 一人の怪物がいた。

ゾルゲは、酒を愛し、女を愛し、スピードを愛した。

出会うあらゆる人間を魅了した、ハンサムなスパイ。

絵空事ではなく現実、そんな男がいた。

彼は彼と触れあった人々は、どう生き、どう死んだか。

フィクションよりも、事実の方がおもしろい。

夢があるから、生きられる。理想があるから、死ぬる。

映画『スパイ・ゾルゲ』は、20世紀が生んだ夢と理想、その萌芽と崩壊の序曲である。

そして、人々が次代の夢と理想に思いを馳せるための、映像詩である。

エンディング曲「IMAGINE」の歌詞のように。 — 篠田正浩 —

RICHARD SORGE Richard Sorge

篠田正浩最後のプロジェクト遂に始動!

映画監督篠田正浩が、10数年もの間温めてきた積年の企画“スパイ・ゾルゲ”がいよいよ始動する。

昭和8年(1933年)9月に来日してから昭和16年(1941年)の太平洋戦争開戦前夜まで、日本政府の最高機密報を盗み出し、モスクワに送りつけたロシア人スパイ“リヒャルト・ゾルゲ”。日本の特高警察に逮捕された時、「もはや日本に盗む機密は何もない」と自ら豪語する程の優れた情報収集能力。誰をも惹きつけるハンサムにして強烈な個性とその人間的魅力。スパイであると同時に透徹した目を持つジャーナリストにして文化人類学者。そして、プレイボーイ…。

この両世界大戦間の激動の時代を駆け抜け、その諜報活動によって世界の歴史をも動かした一人の〈怪物〉に惚れ込んだ篠田正浩が、その監督生命をかけて「スパイ・ゾルゲ」を21世紀のスクリーンに登場させる。中国〈上海〉・ソ連〈モスクワ〉そして日本〈東京〉、20世紀最大の国際スパイ“ゾルゲ”の活躍を圧倒的なスケールで描き出す、エンターテインメント超大作が誕生する。

Spy  Sorge
スパイ・ゾルゲ